

空と窓と、京都の路地は奥に深いです

tou+3

伊田商店

楠精織株式会社

北観音

今年の祇園祭は、「大船鉦」が復活という話題で盛り上がりました。

山鉦巡行も、昔に戻って前後二回行うことになり、
その後祭りの直前の日曜日に、ちょっと見に行ってきました。



新町通りの四条をちょっと下ったところです。
「大船鉦」は火事で燃えてしまったので、消防署の
レクチャーがありました。



大船鉾

提灯も真新しい。

「四」とあるのは四条町の四でしょうか。



突然雨が降ったりするので、胴懸けの部分にはビニールが
かけてありますが、これも汎用品ではなくて特注のようです。



後部です。

白木が綺麗ですけど、いずれ漆を塗って金箔をはったり
ピカピカの金具をつけるんでしょうね。

装飾性ももちろんですが、結果的にその方が長く持つのだろうと
思います。



いかにも晴れの日、という感じ。



こういうのを作れる人が居る、ということなんですよ。
想像もつかんなあ。



鉾の下に積んである竹
何に使うかという、交差点で方向転換する時に
車輪の下にしくんです。で、うりゃー！と力技で回す。

チャンバラ用では有馬温泉。



車輪の留め金

昔こう言うのが、テレビゲーム機の中で
ちょこまかちょこまか動いていたような。
こんなところに生き延びてやがったのか。。



他の山も見に行ってみよーっと。
を、新町通りを上がって行くと、早速見えました。

うーん、なんかええ雰囲気醸し出しやがって。



寄付をすると、この京うちわがもらえるそうです。
Hってありますが、何種類もあります。
「いろは」、とかにしましょうよ。



南観音山

↑ここから上れます。

¥300ぐらい



動く美術館とは良く言った物で。

昔からの物をそのまま使うのではなくて、
修理したり新調したりしてはるそうです。
なんせ、650年前に始まってますから。



向こうにも山が。



町内の出入りのところに提灯を上げるんですね。
カッコいいじゃないですか。

もちろんクルマは入れません。



二階でつながっているところが、いかにも
都市型のお祭りって感じがします。

夜はまた、提灯に灯りが入ってきれいなんでしょうけど、、、





石持太い 天保って書いて（彫って）あります。



「銚」は上に飾り物をつけるんですが、「山」の方は松の木をつけるそうで、これ、生木だそうです。

毎年、植木屋さんに丁度ええ大きさのシュツとのびてはるのを探してもらうのだとか。

で、結構取り合いになるとか、ならんとか。
まあ、京都の人ですから、表に出んところで、いろいろ有るんでしょうね。



この結び目も独特なんだろうね。
エビかなあ。水引みたい。



アップにしてみました。

スタンプラリーをやってました。

スタンプの台紙をもらえます。

黒いのが後祭りの山のスタンプですね。

3つほど押したところで、とある事情で全押しを諦めました。



組み立て中の山です。
提灯が無いと、スリムです。

あの人、いつのTシャツでしょうか、、、↑。



こんなふうに町内の方が忙しく準備をしておられます。
あの缶に提灯が納められてるんですね。昭和55年。いまから24年前にあつらえはったのか。
テキパキ指示を出す人と、言われたままに動く人がいます。



この人は町内の人ではなくて、鳴海餅の配達の人です↑
クルマが入れないからか、自転車でした。ご苦労様です。
お餅かな。おにぎりとかかもしれません。



いつの物か分かりませんが、高そう。
恐くてよう触りません。



提灯出てきました。



これを路地に、順々につって行くわけです。
夜は綺麗なやろうけどなあ。

ポップなTシャツですね。
アンディー・ウォーホール？



まあ、なんと涼しげな。



まあ、なんと涼しげな。
これから着せてもらうんですね。



準備中。
山にのせたり、側面にかけたり。

手間ひまのかかることです。

あんまり働いてはりませんがね。





この鈴鹿山は烏丸通で立ててはります。
烏丸通はメインストリートなんで、交通量も多い。
しかも影がないから大変でしょうね。



竹で編んだ筒に油紙を貼ってあるんでしょうか。
昭和38年。十数年の間に、金属の缶に変わって行ったんですね。









この山、桜なんですよ。
なんでも、大伴黒主という歌人がこの桜を見上げている
姿の今風に言えばジオラマになるんですが、、、



この人です。
ちゃんとしめ縄がかけてありますから、ご神体なんですね。





読めない



提灯に灯が入る夜に来たいところなんですが、宵山の人々の多さというのは正気の沙汰ではないです。

この狭い山鉾町の一帯の、更に狭い路地に、何十万人かが集ってくるわけで、一度行きましたが二度目はないなと思いました。



こうやって、組み立てて行かはあるわけですが、
パーツの順番に気をつけて入れていかないと
入らなくなるそうです。

上に上がってるのは若い人ばかりですけど、
おじいちゃんが下の方で、ゆっくりと幕をつけてはりました。

祭りは、する方の側が楽しいんですよね。

終わったら、ビールかな。





「おかあちゃんどうしたん？」

「あっついあっついで、ちょっと疲れたわ。」

「うちが、ええこええこしたげる。」



人が並んではるので、わたしも並んでみる事に。
10:30ぐらいでしたけど、もうかなり暑かったです。

一番



左甚五郎作
鯉

をを!



これは、16世紀頃にベルギーで製作されたもの
江戸時代にこれをつけて動かしてたんですから、
当時の京の町衆の心意気みたいなものを感じます。



浄妙山の人形

ここのじいさんがですね、
「あんたんとこ、何時からスタンプ出すの。」
「うちは、1時や。」
「え？」
「うちわ1時」

という会話を耳にして、このクソ暑いのに1時まで待つてられるかい、と
思って、スタンプラリーを諦めたのでした。

いけずですねー、本まに。









祇園祭は、山や鉾だけではなくて、各家で持っている
屏風やなんかを披露する伝統が有るそうです。

推測ですが、元々の屏風か障子がいたんだのでカットして
改めて銀箔押しの屏風に装丁し直したんではないかと。

古い部分と、新しい部分の、経過して来た時間のコントラスト
みたいな物が際立って、美しいですね。

掛けてあるのは狂言かなにか、お祝いものときの
舞の装束かなあ。



おばあちゃん、美味しそうですね。
若いころやったら、はしたない事しなさんな、って
怒られたかも。



↑
絹の小袖
の
な

↑
扇を描いた屏風

扇面の絵柄を定番に抑えて
動きがあって、楽しい。

↑
横棧になった衝立て
ちまき

↑
のようなものに
絵巻様の絵が描いてある

↑
裸電球
↑
簾
↑
昼寝用

衝立てか

暑い夏を、見た目に涼しくする工夫が。



京都のうちは、間口は狭くても奥に広いです。
もちろん、滅多な事では見せて貰えません。



可愛いですね。

巡行は日が決まっているので、休みと重なるとは限らず、
1回しか見た事がないんですが、また見たくなってきました。

宵山も、いいかも。

空と窓と、京都の路地は奥に深いです tou+2	http://p.booklog.jp/book/88206
Travelogue _ ep.03 近つ淡海	http://p.booklog.jp/book/87975
passer un après-midi 6 午後の過ごし方」	http://p.booklog.jp/book/87771
Photo 「空と窓と、京都水族館はペンギンで一杯です」	http://p.booklog.jp/book/87552
「passer un après-midi 5 午後の過ごし方」	http://p.booklog.jp/book/87350
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです tou+1」	http://p.booklog.jp/book/87057
Photo 「花水硝」	http://p.booklog.jp/book/86821
「passer un après-midi 4 午後の過ごし方」	http://p.booklog.jp/book/86636
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです tou」	http://p.booklog.jp/book/86313
「passer un après-midi 3 午後の過ごし方」	http://p.booklog.jp/book/86112
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです Qu」	http://p.booklog.jp/book/85799
「passer un après-midi 2 午後の過ごし方」	http://p.booklog.jp/book/85513
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです nYa」	http://p.booklog.jp/book/85209
「passer un après-midi 午後の過ごし方」	http://p.booklog.jp/book/84911
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです na」	http://p.booklog.jp/book/85209
「Travelogue ep.02 桜巡り」	http://p.booklog.jp/book/84667
「黄金の麦畑」	
1.Largo	http://p.booklog.jp/book/58662
2.Allegro molto	http://p.booklog.jp/book/83865
3.Adajo (連載中)	
「黄昏の王国」	
イーリアス編 ●update	http://p.booklog.jp/book/49612
アリシア編	http://p.booklog.jp/book/51254
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです na」	http://p.booklog.jp/book/84165
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです mu」	http://p.booklog.jp/book/83952
「Travelogue ep.01」	http://p.booklog.jp/book/83694
Photo 「Hina」	http://p.booklog.jp/book/83499
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです itu」	http://p.booklog.jp/book/82880
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです yo」	http://p.booklog.jp/book/82643

Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです mi」 <http://p.booklog.jp/book/82160>
Photo 「からくれないに ni」 <http://p.booklog.jp/book/81713>
Photo 「bleu, jaune, vermillion」 <http://p.booklog.jp/book/81111>
Photo 「H.45」 <http://p.booklog.jp/book/80229>
Photo 「Fly me to Paris I ～XIV」
Photo 「祇王 こけのころも」 <http://p.booklog.jp/book/74864>
Photo 「空と雨と6月と」 <http://p.booklog.jp/book/74060>

小説

「ネガティブズ2」
「ネガティブズ」 <http://p.booklog.jp/book/73051>
Photo 「空と僕と自転車とni」 <http://p.booklog.jp/book/72996>
Photo 「空と僕と自転車と」 <http://p.booklog.jp/book/72092>
Photo 「空と椿と木蓮と、そして花水木」 <http://p.booklog.jp/book/71344>
Photo 「空と雲と、ぜんぶ鳥のいたずら」 <http://p.booklog.jp/book/70700>
Photo 「空と雲と、ときどき春の野に行く」 <http://p.booklog.jp/book/70137>
Photo 「空と月と、夜桜デート」 <http://p.booklog.jp/book/69415>
Photo 「空と木と、ときどきの梅暦」 <http://p.booklog.jp/book/68722>
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです ni」 <http://p.booklog.jp/book/65536>
Photo 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/64153>
Photo 「空と木とたまに月」 <http://p.booklog.jp/book/62540>
Photo 「からくれないに」 <http://p.booklog.jp/book/61473>
Photo 「空と雲と、ときどき月」 <http://p.booklog.jp/book/36294>
Photo 「夢みる桜」 <http://p.booklog.jp/book/45286>

— 僕カノシリーズ —

「僕が彼女に殺された理由（わけ）」 ●update <http://p.booklog.jp/book/31906>
「僕と彼女の選択の事由（わけ）」 <http://p.booklog.jp/book/35498>
「僕と彼女はそれしか答えを見つけられなかった」 <http://p.booklog.jp/book/36101>
「僕と彼女はそれでも答えを探し続ける」 <http://p.booklog.jp/book/36617>
「僕と彼女と複雑な関係者たち」 <http://p.booklog.jp/book/37238>
「僕と彼女と単純な関係式」 <http://p.booklog.jp/book/37731>
「僕と彼女と校庭で」 <http://p.booklog.jp/book/38409>

「僕と彼女と校庭で 夏」	http://p.booklog.jp/book/38977
「僕と彼女のARIA」	http://p.booklog.jp/book/46524
「僕と彼女のインベンション」 (次回)	
— その他 —	
傘がない	http://p.booklog.jp/book/69798
夕暮れの赤ちょうちん	http://p.booklog.jp/book/42024
いもうと	http://p.booklog.jp/book/40794
サマータイム・ブルース	http://p.booklog.jp/book/34054
危険なドライビングマジック	http://p.booklog.jp/book/33630
デフラグメント	http://p.booklog.jp/book/33116
●update	
インフルエンス あのころの僕たち	http://p.booklog.jp/book/32752
花舞い、名残り雪	http://p.booklog.jp/book/32187
詞画集「ただ憧憬だけを」	http://p.booklog.jp/book/34472
画集 「彼と彼女の表紙画集」	http://p.booklog.jp/book/39345